

政務活動報告書

会派名 櫻鳴会

年 月 日	令和 4 年 7 月 5 日 ~ 4 年 7 月 6 日			
場 所 (市外の場合は 行程を記入)	7月5日(火) 午後2時...東京都墨田区 7月6日(水) 午前11時...衆議院議員会館(東京都千代田区)			
	7月5日(火) 弘前 - 新青森駅 - 東京駅 - すみだ北斎美術館 (東京都内泊) 7月6日(水) 東京駅 - 新青森駅 - 弘前			
相手方 (会議名等)	7月5日(火) すみだ北斎美術館 視察 (すみだ北斎美術館、墨田区地域力支援部文化芸術振興課) 7月6日(水) 国土交通大臣政務官 木村次郎 衆議院議員への要望活動			
参加議員名	三上 秋雄、宮本 隆志、田中 元、佐藤 哲、松橋 武史、齋藤 豪、坂本 崇			
活動の概要	別紙のとおり			
※会議・研修資料等があれば、添付してください。				
活動に要した経費	主な品目	政務活動費相当額	領収書番号	支払証明書番号
	旅費(交通費及び宿泊費) @47,860×7	335,020 円	1	
		円		
		円		
		円		
		円		
	合計額	335,020 円		
備 考	(写真貼付等) 別紙のとおり			

令和4年度
会派「櫻鳴会」行政視察及び中央要望
報告書

日 程 令和4年7月5日～6日

行政視察 7月5日 墨田区すみだ北斎美術館

中央要望 7月6日 国土交通省

会派「櫻鳴会」 三 上 秋 雄

墨田区すみだ北斎美術館 行政視察

「すみだ北斎美術館の取り組みについて」

すみだ北斎美術館は平成元年から建設を計画、平成5年に建設予定地を購入、その後財政状況の悪化により一時凍結された。空白期間があったが平成18年に東京スカイツリー建設地決定後、周辺環境整備のリーディングプロジェクトとして位置付けられ、建設事業計画が再開、平成28年11月に開館した。

令和3年度の観覧者数は約57,000人で、これはコロナ前の約3割相当の観覧者数とのものであった。開館からの観覧者数は令和2年12月に80万人を達成。

管理運営は、墨田区文化振興財団と丹青社の共同企業体による指定管理で、墨田区文化振興財団の理事長が代表となっている。

指定管理料は年間観覧者数20万人想定で、約1億6千万円。うち1億円が区の一般財源で、6千万円がふるさと納税を活用。墨田区の北斎ふるさと納税は東京23区内で最も早く実施され、直近で2連続東京都第一位、これまでの累計額が29億円となっている。



つながる
墨田区

2020年すみだは国産技術でボクシング



あしたのジョー すみだ
東京オリンピックボクシング競技場

墨田区
地域力支援部
文化芸術振興課

課長

岩本 健一郎

Iwamoto Kenichiro

〒130-8640 東京都墨田区吾妻橋一丁目23番20号
TEL:03-5608-1111 内線:5451 FAX:03-5608-8934

E-MAIL: [REDACTED]
<http://www.city.sumida.lg.jp>



館長

橋本 光明

〒130-0014 東京都墨田区亀沢二丁目7番2号
TEL:03-6658-8931 / FAX:03-6658-8992

[REDACTED] <http://hokusai-museum.jp/>



すみだ北斎美術館



国土交通省 中央要望

「道路融雪設備の機器更新への支援制度の拡充について」

弘前市内にあるフロンガス冷媒のヒートポンプ融雪設備が耐用年数を超過しており、経年劣化による不凍液の漏洩等が発生している。

令和2年で特定フロンの製造が全廃され、今後、補充用冷媒の入手が困難である。

融雪設備の施設更新にかかる費用は多大と試算され、その確保が課題であることから、会派「櫻鳴会」7名で道路融雪設備の機器更新への支援制度拡充を求める要望書を木村次郎国土交通大臣政務官へ提出した。



国土交通大臣政務官

国土交通省

衆議院議員

木村次郎



衆議院議員 木村次郎

秘書 今岡陽子

〒100-6502 東京都千代田区永田町二丁目一番二番
衆議院第二議員会館八〇九号室
電話〇三(三五八)五二一内線七〇八九
FAX 〇三(三五〇)八三三八八
〒036-6191 東京都千代田区永田町二丁目一番二番
衆議院第二議員会館八〇九号室
電話〇一七二(三六)八三三三

令和4年度 会派「櫻鳴会」行政視察及び中央要望 報告書

会派 櫻鳴会 宮本 隆志

令和4年7月5日

東京都墨田区 すみだ北斎美術館視察 報告書

すみだ北斎美術館視察では、展示方法及び運営等について当市美術館においても大変参考になる事が多々ありました。

その一つとして、個人的希望ですが北斎の作品を借入して、広く市民に北斎の人となりを知ってもらう意味を含めて、世界的に偉大な芸術家の作品に接して頂き、特に子供達には知識を深めてほしいと思っています。

ちなみに、すみだ北斎美術館の敷地は江戸時代弘前藩津軽家の屋敷があった所です。

令和4年7月6日

国土交通省への要望 報告書

木村代議士には公務多忙な折にもかかわらず、政務官室において要望の主旨に深いご理解の上前向きな考えを示して頂きました。

この事から今回の陳情・要望は非常に有意義なものであったと思います。

従って我々は引続き所期の目的達成のため努力をして行くものであります。

報告書

すみだ北斎美術館の視察

及び 国土交通大臣政務官に対する要望活動

櫻嶋会 田中 元

7月5日.

墨田区にある、すみだ北斎美術館は江戸時代の津軽藩の屋敷跡に建っているという縁もあります。私達がよく知っている「富嶽三十六景」は北斎のオガベにならざるの作品であります。今回は若い時からの一連の作品を見ることが出来まして、一層理解を深めることになりました。

多くの弘前市民に見てほしいなと思ひまして、弘前で出張展覧会をしてもらうようお願いもしてまいりました。

7月6日.

国土交通省の国土交通大臣政務官室において木村次郎政務官に対して、弘前市の道路融雪設備の機器更新への支援制度の拡充について要望しまして、政務官からは充分検討するとの話がありました。

令和四年七月五日

墨田区 寸町右北衛美術館

視察報告書

弘前市評議会議員

「桜鳴会」

佐藤 悠

1. 美術館としての位置づけ

- ① 区の文化の再発見の場として
- ② 伝統、文化の発信と普及の場
- ③ 区民への文化継承、教育普及の場
- ④ 区民の誇りとしての施設

2. 沿革

- | | |
|-------|--------------------|
| 平成元年 | 北斎館の建設と計画 |
| " 4年 | 基本構想策定 |
| " 5年 | ビルダー、エース コレクショント取得 |
| " 7年 | 榎崎宗重博士所蔵美術品受贈 |
| " 19年 | 施設整備方針策定 |
| " 21年 | 正式名称「すずろ北斎美術館」に決定 |
| " 26年 | 工事着工 |
| " 28年 | 竣工・開館 |

3. 施設運営等について

管理運営者

○ 墨田区文化振興財団、丹青社 共同企業体

○ 指定期間

1 期目 平成28年11月～令和3年3月

2 期間 令和3年4月～令和4年3月

指定管理料

16,000万円 (例年)

本年については5000万円補填追加

4. 文化振興と教育への活用について

「隅田川、森羅万象 墨に夢」プロジェクト、展南

○ 地域の魅力を発見し、表現活動に生かすための表現活動を
生み出す人達をつなぐプロジェクトを展南に置く。

○ ワークショップや講座、ミニコンサート等定期的に

開催していく

4. 観光施設や産業振興等の分野との連携

① 観光施設との連携

② 区立博物館等との連携

③ 産業施設との連携

以上3つと連携した活動を進めている。

まとめ

我が弘前市の現代美術館の立ち上げと今後の活用のおおむねを覚えるに前市長の元で補助金有りまで造ってしまつたことかくせられる。

充分な時間をかけ美術品の収集を進め、その後の活用を初めに計算して後に動き出すべきであつた。墨田区では「ふるさと納税」もこの施設に活用しており、行政が箱物12年を出す時には補助金に目を付けて進めていくことは廠にツツ（おたく）ではない。この後の市所有現代美術館はツツには管理事業者と共に積極的な活用を目指し、知恵を1つとっていく仕組みの構築が望まれる。

○ 道路融雪設備更新支援拡充要望について

7月6日 国土交通省に対し上記設備機器

更新への支援制度拡充を求める要望書と

木村次郎政務官に手渡した。

合わせて木村政務官に要望内容について説明

とし、冬期内のバリアフリー確保を訴えた。

令和4年7月5日 櫻鳴会 松橋 武史 視察 墨田区すみだ北斎美術館

美術館の位置づけ

(1) 区民の施設として

- ① 墨田区の文化の再発見の場
- ② 墨田区の伝統・文化の発信と不急の場
- ③ 区民への文化継承・教育普及の場
- ④ 区民が誇れる景観・文化施設

(2) 観光施設として

- ① 墨田区及び両国地区観光の集客施設
- ② 墨田区の文化・産業のPR活動の場

運営目標

- (1) 葛飾北斎を中心として門人や関連作家の作品を広く内外に発信し魅力を高める
- (2) 墨田区の文化振興および文化伝承の場として機能させる
- (3) 未来を見据えて成長する新たな美術館を創造する

管理運営

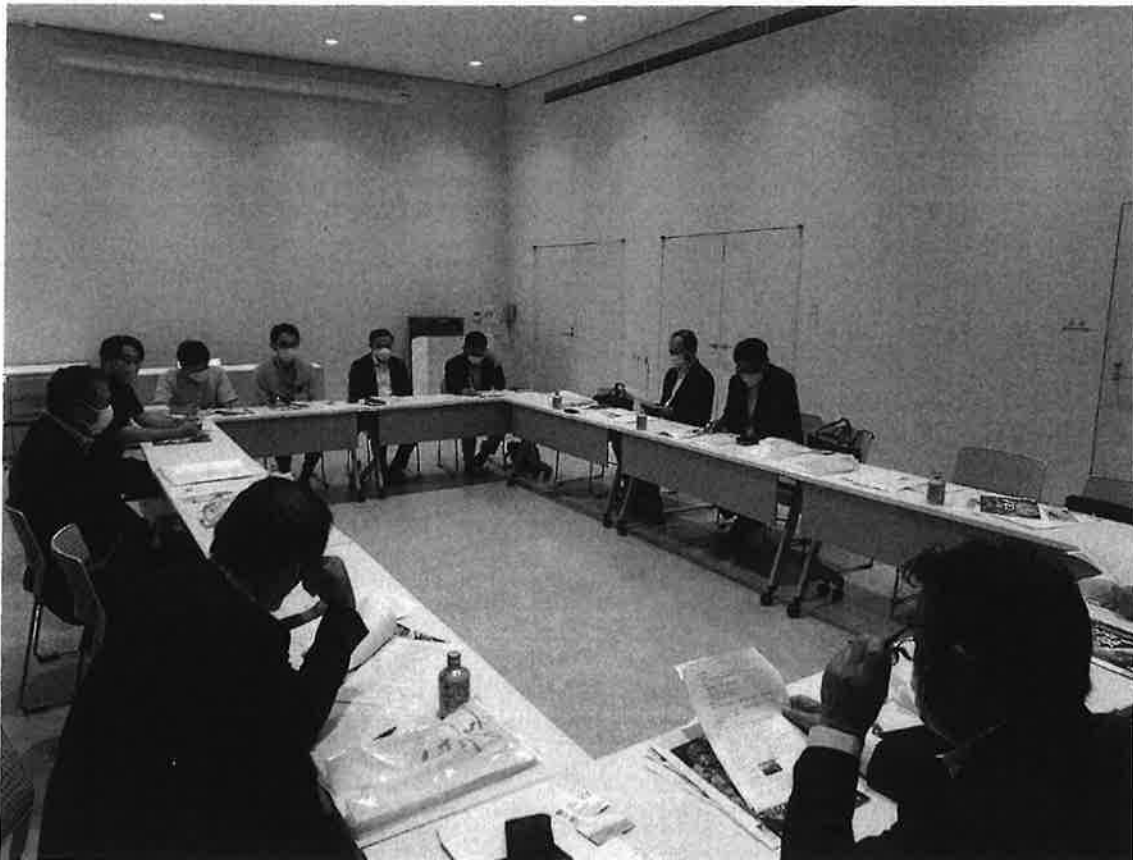
経営管理者を指定管理とし指定期間は5年とする

入場者数

平成 27 年に 4 月に北齋ふるさと納税事業を開始し、目標の 5 億円を平成 28 年 10 月に達成

平成 29 年 4 月 29 日会館 1 年目の入館者数 20 万人を突破

平成 30 年 50 万人、平成 31 年 60 万人、令和 2 年 75 万人、令和 3 年 85 万人突破



寄付金、ふるさと納税の 5 億円については、参考にしたい、しかし、当市の美術館は現代美術館のため難しいのか？

葛飾北斎のビックネームだからこそその寄付金と思う。

入場者数のついては年度年度の目標を達成している。しかし、コロナの影響で来館者数は伸び悩む。ウィズコロナに伴いインバウンドにも期待、これは当市も期待はできる。

経営管理については指定管理とし期間は5年とし、一般的な契約となっている。

令和4年7月6日 櫻鳴会 松橋 武史

衆議院議員 木村次郎 国土交通政務官へ要望

要望内容：道路融雪設備の機器更新への支援制度の拡充について

平成4年から導入され、対応年数を超過、経年劣化のため不凍液等が漏洩が確認されている。

施設更新費の確保が課題、早期に対応して頂きたいと要望



木村次郎国土交通政務官からは会派 櫻鳴会の市議の皆様からの熱い要望をしっかり受け止めて担当局長に伝える。と力強い対応を頂いた。

行政視察報告書（政務活動費）

齋藤豪

令和4年7月5日（火）

東京都墨田区 すみだ北斎美術館

視察事項 「すみだ北斎美術館の取り組みについて」

視察項目 美術館の様々な取り組みについて

特色ある美術館の運営と、目的について

所感 今回の視察では、同じく美術館を運営している弘前市として、管理運営に関わる一人として、興味深い内容であった。教育や文化振興への活用に、大人から子供まで楽しめる企画を開催するなど、広く活用・発信されていた。

観光産業、製造業などの地域ブランドとの連携を図りながら、墨田区の産業の発展に寄与している様に感じた。

何より、葛飾北斎を最大限に活かし美術館運営にあたっている様に感じた。

令和4年7月6日（水）

東京都千代田区永田町 国土交通省

政務活動事項 国土交通省 木村次郎国土交通大臣政務官への要望書提出

政務活動内容 弘前市内、道路融雪設備の機器更新への支援制度の拡充について

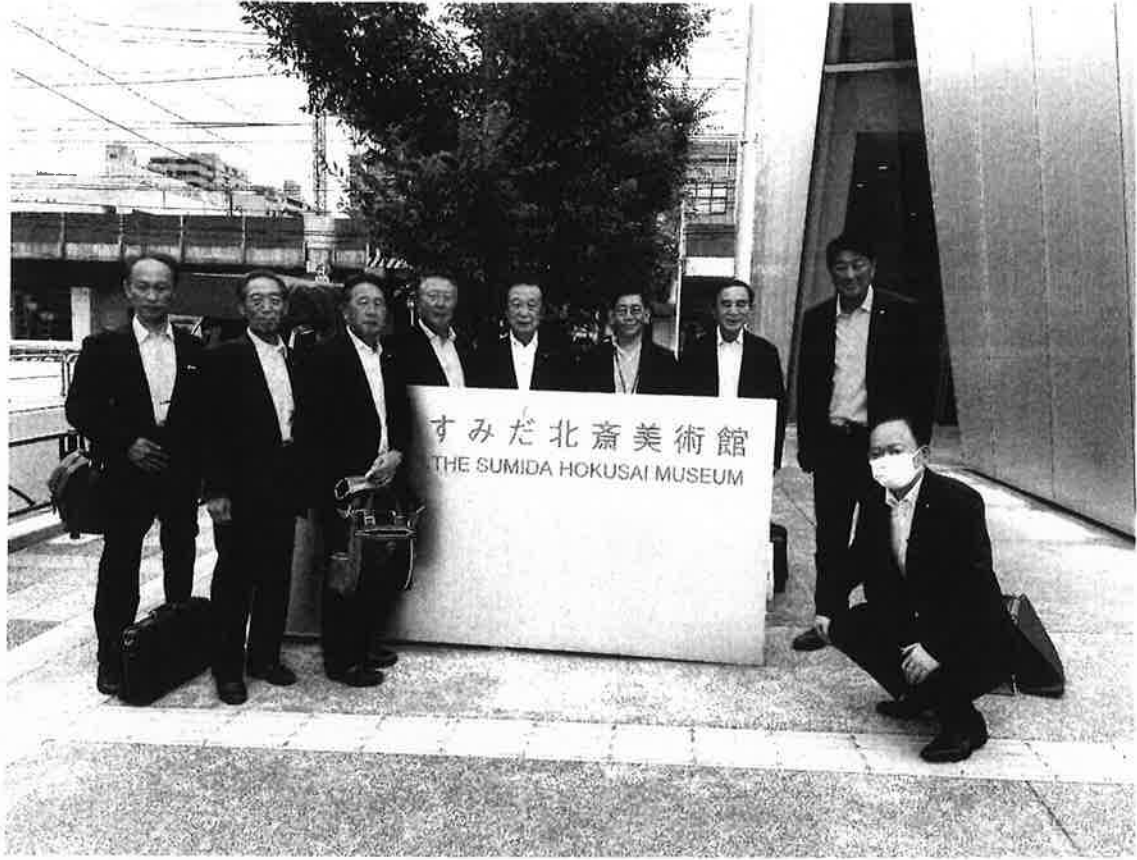
道路融雪設備の機器の現状と課題について、国土交通省に直接赴き地元選出国會議員で、国土交通大臣政務官 木村次郎代議士への要望書を手渡して来た。

所感 会派として、駅前地区や市内の融雪機器システムについて、議論もしてきました。

先般、建設部の職員と共に駅前地区の融雪設備機器の経年劣化による不具合の現状について、直接現場において説明を受けました。

現状を見るにつけ、会派での要望書を提出するに至りました。

以上、報告いたします。







令和4年度 政務活動報告

1. 活動日時 令和4年7月5日(火) 14:00~15:30
2. 視察場所 東京都墨田区亀沢二丁目7番2号(墨田区立緑町公園内)
すみだ北斎美術館
3. 視察項目 すみだ北斎美術館の取り組みについて
4. 視察内容

平成28年11月に開館したすみだ北斎美術館は弘前藩の上屋敷跡に建設されたことというご縁から、開館当初には、弘前ねぶた絵制作の実演や、北斎通りでねぶた運行が行われる等の交流が行われた経緯がある。弘前ねぶたが弘前藩の御国日記に登場してから300年の節目を迎えた今年、ねぶた絵に多大な影響を与えた葛飾北斎の作品を展示している同館を視察し、美術館の運営についてお話を伺いするとともに、今後の本市との交流の可能性等について意見交換を行った。

(1) 館内見学

すみだ北斎美術館は、世界的に著名な女性建築家の妹島和世による設計で鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)地上4階、地下1階からなる近未来的な斬新な外観デザインが特徴の建物。

視察当日は北斎の鬼に関する作品にスポットをあてた企画展「北斎百鬼見参」が開催されていた。荒々しい鬼の構図、画風は、ねぶた絵に通ずるものがあり、北斎の作品は、多くの錦絵、ねぶた絵に大きな影響を与えたことが窺えた。

(2) 美術館の運営について

すみだ北斎美術館は、世界的評価の高い画家・葛飾北斎を中心に門人や関連作家の作品を広く国内外に発信し魅力を高める拠点として設置され、建設費の一部をふるさと納税によるクラウドファンディングによる寄付をあてた。ふるさと納税の税制改正後、東京23区では初の試みであり、現在も運営費の一部をふるさと納税により捻出している。

指定管理者は墨田区文化振興財団と丹青社の共同企業体となっている。

(3) 質疑・意見交換

美術館の運営は指定管理者制としているが、そのメリットとしては、共同企業体の中に全国各地の美術館、博物館等の指定管理を多く手掛ける企業が参画しているところから、区直営にはない展示のノウハウがあり、デメリットとしては、契約書に基づいた運営手法でどちらかど

いうとビジネスライクで積極的な地域との連携が希薄であるということであった。

現在、当市では、歌川広重展を開催中であるが、弘前市での葛飾北斎展の可能性についてお聴きしたところ、過去に長野県の小布施町にある北斎館と作品を貸し借りしたことがあった。実現のためには、北斎の作品は世界的に貴重であることから、貸し出し等については、互いの信頼関係、友好関係がなければ難しいとのことであった。

5. 所 感

文献に登場してから今年で300年を迎える「ねぶた」であります。弘前城下で生まれ津軽領内各地に広まりそれぞれの地で独自の発展を遂げました。中でも弘前は明治時代以降、扇形が多くなり、北斎調の「日本画」を基調とした形になったことから、青森市や五所川原市の組ねぶたと異なる「絵画的」な特色を持っております。弘前ねぶたの絵は、葛飾北斎の高弟にあたるといわれる葛飾戴斗が江戸時代に描いた『絵本通俗三国志』等が手本となっています。これは江戸で花開いた浮世絵の文化が地方に波及し、どのような影響を及ぼしたのかを知る貴重な事例でもあります。こういった背景から、北斎調の日本画をルーツに持つ弘前ねぶたの「絵」にもっとスポットが当たっても良いのではと思いを強くしました。北斎美術館が建つ場所は弘前藩の上屋敷跡であり、近くには、当時の中屋敷だった場所に津軽稲荷神社がある等、現在の墨田区は当地とは歴史的・文化的にゆかりの多いところでもありますので、今後北斎調の日本画を通じた交流を検討するべきと感じた次第であります。

以上





つながる
墨田区

2020年すみだは競技場でボクシング



あしたのジョー すみだ
全日本選手権大会 会場

墨田区
地域力支援部
文化芸術振興課

課長

岩本 健一郎

Iwamoto Kenichiro

〒130-8640 東京都墨田区吾妻橋一丁目23番20号
TEL:03-5608-1111 内線:5451 FAX:03-5608-6934
E-MAIL: [REDACTED]
<http://www.city.sumida.lg.jp>



TOKYO 2020



TOKYO 2020



館長

橋本光明

〒130-0014 東京都墨田区亀沢二丁目7番2号

TEL:03-6658-8931 / FAX:03-6658-8992

<http://hokusai-museum.jp/>



すみだ北斎美術館

令和4年度政務活動報告

木村次郎国土交通大臣政務官に対する要望活動報告

1. 活動日時 令和4年7月6日(水) 11:00～
2. 要望議員 弘前市議会 櫻鳴会
代表 三上秋雄
宮本隆志 田中 元 佐藤 哲 松橋武史 齋藤 豪 坂本 崇
3. 要望先 東京都千代田区霞が関2-1-3 国土交通省
木村次郎国土交通大臣政務官
4. 要望事項 道路融雪設備の機器更新への支援制度の拡充について

5. 要望内容

弘前市内に存在しているフロンガス冷媒のヒートポンプ融雪設備(車道3箇所、歩道4箇所)は、平成4年から導入され、太陽年数である15年を超過して運用しており、経年劣化によるフロンガスや不凍液の漏洩などが発生している。

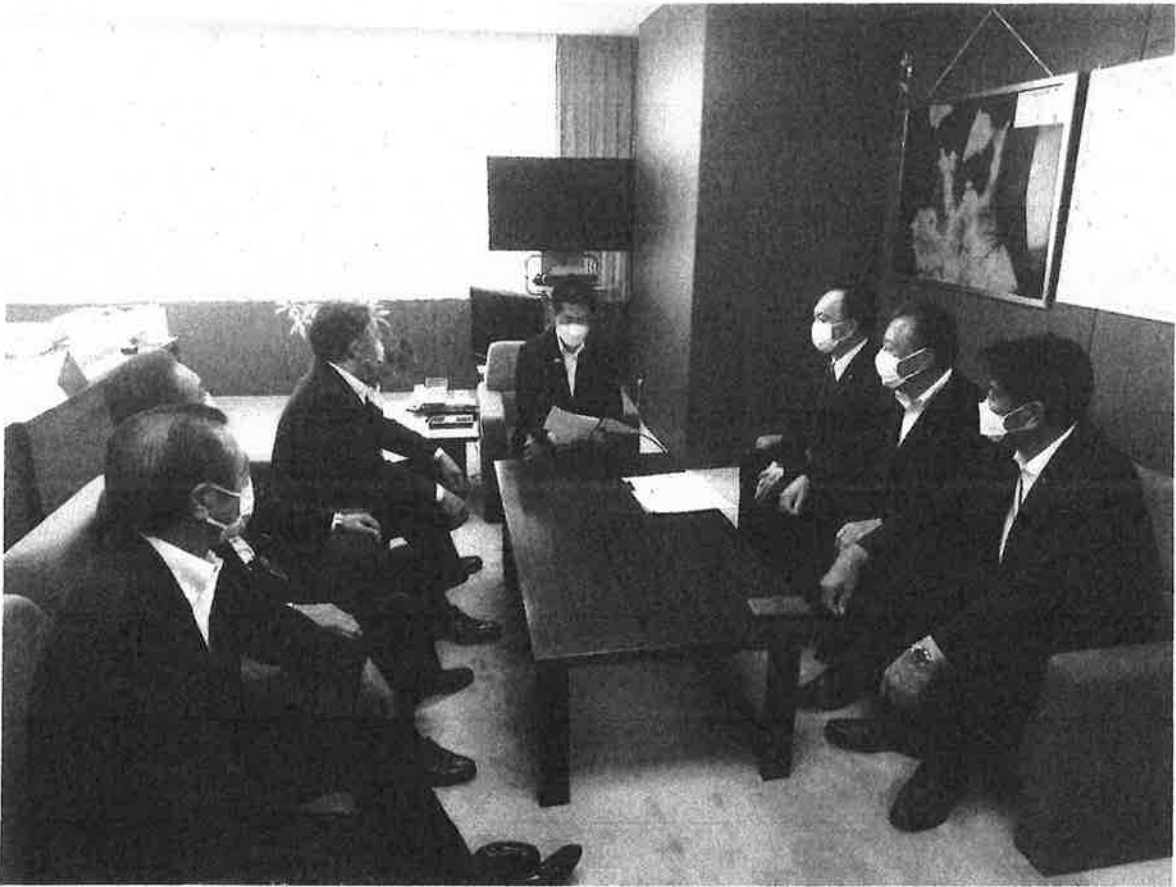
モントリオール協定により令和2年で特定フロン(R22等)の製造が全廃され、今後補充用冷媒の入手が困難となることから特定フロン使用の融雪設備を計画的に更新していく必要があるが、その費用は多大なものと試算されており施設更新費の確保が課題となっている。

車道融雪については、坂道という地形特性から冬期道路交通の安心・安全を確保する施設として融雪能力の確実性と制御応答性が求められている。また、歩道融雪は弘前市の玄関口である駅前地区に整備され、歩行者の周遊性と少子高齢化における冬期間のバリアフリーを確保する重要施設となっている。

車道融雪・歩道融雪共に経年劣化による不具合や能力低下の顕著化とフロン対策が喫緊の課題となっていることから、木村次郎国土交通大臣政務官に対して次の要望を行った。

- ◎道路融雪設備の機器更新への支援制度の拡充
- ◎道路融雪施設の機器更新のための社会資本整備総合交付金の重点施策化による予算確保の継続
- ◎歩道・車道の別にかかわらない融雪施設の継続性の高い施設運用と適切な維持更新に向けた支援制度の情報提供

以上



国土交通大臣政務官

国土交通省

衆議院議員

木村次郎



衆議院議員 木村次郎

秘書 今岡陽子

〒100-8382 東京都千代田区水田町二丁目一番二号
衆議院第二議員会館八〇九号室
電話〇三(三五八)五一二一内線七〇八〇九
FAX〇三(三五〇八)三八八〇七
〒465-8601 静岡県浜松市親方町四三三
電話〇七二(三六)八三三三二

館長

橋本光明

〒130-0014 東京都墨田区亀沢二丁目7番2号

TEL:03-6658-8931 / FAX:03-6658-8992

<http://hokusai-museum.jp/>



すみだ北斎美術館



つながる
墨田区

2020年すみだは国際博覧会開催地



あしたのジョー×すみだ
心斎堂明園・ちばてつや/株式会社

墨田区
地域力支援部
文化芸術振興課
課長



岩本 健一郎

Iwamoto Kenichiro

〒130-8640 東京都墨田区吾妻橋一丁目23番20号

TEL:03-5608-1111 内線:5451 FAX:03-5608-6934

E-MAIL:

<http://www.city.sumida.lg.jp>

要 望 書

道路融雪設備の機器更新への支援制度の拡充について



歩道融雪の稼働状況【弘前駅前地区】

弘前市議会 櫻鳴会

○ 道路融雪設備の機器更新への支援制度の拡充について

【現状と課題】

弘前市内に存在しているフロンガス冷媒のヒートポンプ融雪設備（車道3箇所、歩道4箇所）は、平成4年から導入され、耐用年数である15年を超過して運用しており、経年劣化によるフロンガスや不凍液の漏洩などが発生しております。

モントリオール議定書により、令和2年で特定フロン（R22等）の製造が全廃され、今後、補充用冷媒の入手が困難となることから、特定フロン使用の融雪設備を計画的に更新していく必要がありますが、その費用は多大なものとして試算されており**施設更新費の確保が課題**となっております。

車道融雪については、坂道という地形特性から冬期道路交通の安心・安全を確保する施設として、融雪能力の確実性と制御応答性が求められます。

車道融雪（空気熱源式ヒートポンプ）稼動状況

火葬場坂



加藤坂



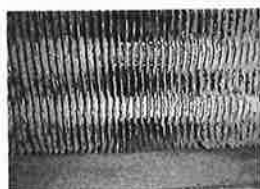
弘高下坂



歩道融雪は弘前市の玄関口である駅前地区に整備され、歩行者の周遊性と少子高齢社会における冬期間のバリアフリーを確保する重要施設となっています。

車道融雪・歩道融雪共に経年劣化による不具合や能力低下の顕在化と、更には、フロン対策が喫緊の課題となっております。

弘前駅前地区 高圧3号ヒートポンプ 老朽状況



熱交換器の老朽



冷媒配管の老朽



補器の老朽



ユニットの老朽
(ファンガードの亀裂)

【具体的内容】

道路融雪設備の機器更新への支援制度の拡充をお願いいたします。

道路融雪施設の機器更新については、社会資本整備総合交付金の重点施策化による予算確保を継続してお願いいたします。車道・歩道の別にかかわらず、融雪施設の継続性の高い施設運用と適切な維持更新に向け、支援制度の情報提供もお願いいたします。

【効果等】

融雪施設の適切な更新により、車道や歩道の融雪効果の確実性や制御応答性が確保されます。また、冬期間において利用する誰もが安心して円滑に移動できる道路環境が確保されます。

融雪施設の更新により、世界的に進められているオゾン層の保護や地球温暖化問題の対策に寄与します。

令和 4 年 7 月 6 日

弘前市議会 櫻鳴会

代表 三 上 秋 雄

宮 本 隆 志

田 中

元

佐 藤

哲

松 橋 武 史

齋 藤

豪

坂 本

崇

政務活動報告書

会派名 櫻鳴会

年 月 日	令和 4 年 12 月 14 日 ~ 4 年 12 月 15 日		
場 所 (市外の場合は 行程を記入)	防衛省(東京都新宿区)、衆議院第二議員会館(東京都千代田区)		
	12月14日(水) 弘前 - 新青森駅 - 東京駅 - 防衛省(東京都内泊) 12月15日(木) 東京駅 - 新青森駅 - 弘前		
相手方 (会議名等)	防衛省に対する陳情活動及び勉強会		
参加議員名	松橋 武史		
活動の概要	別紙のとおり		
	<p>※会議・研修資料等があれば、添付してください。</p>		
活動に要した経費	主な品目	政務活動費相当額	領収書番号
	旅費(交通費及び宿泊費) @46,055 × 1	46,055 円	4
		円	
		円	
		円	
		円	
	合計額	46,055 円	
備 考	(写真貼付等) 別紙のとおり		

令和4年12月14日

櫻鳴会 松橋 武史

防衛大臣政務官 木村 次郎 様へ要望

同日、弘前市議会有志による防衛議員連盟にて防衛大臣政務官執務室に要望に行く。

要望内容：本年末に、防衛計画計画の大綱計画が見直しも予定されており、陸上自衛隊においても、今後の配備について再編計画が行われる可能性があることを認識しております。これまでは地域と共に、地元市民と共に歩んできた弘前駐屯地について、再編することなくこれまでの体制を維持し、更なる強化をして頂くことを要望。

令和4年12月15日10:00

衆議院議員 木村 次郎 衆議院議員会館にて 勉強会

議題1：「安保関連3文書改定の方向性について

防衛省 防錆政策課 鈴木 健太郎 総括班長

政府はアメリカの戦略文書との整合性を踏まえ、安全保障関連の3つの文書の体系や名称を見直しました。

このうち、外交・安全保障の最上位の指針である「国家安全保障戦略」は 2013 年に策定されて以来初めての改定です。

おおむね 10 年程度の期間を念頭に、外交・防衛に加え、経済安全保障、サイバーなどの政策に戦略的指針を与える文書となります。

防衛の目標と手段を示す「国家防衛戦略」は、防衛力整備の指針「防衛計画の大綱」に代わる文書です。

武力行使が起きた際に同盟国アメリカなどの支援を受けつつ、日本が責任を持って対処することなど、日本が目指すべき 3 つの「防衛目標」を設定し、その達成に向けた方法と手段を示すものと位置づけています。

「防衛力整備計画」は、防衛費総額や装備品の整備規模を定めた「中期防衛力整備計画」に代わる文書で、計画の期間をこれまでの「5 年」から「10 年」に延長しています。

自衛隊の体制については、おおむね 10 年後の体制を念頭におく一方、防衛力整備の水準や主要な装備品の整備規模は前半の 5 年間を対象に明記しています。

外交・防衛政策を中心にした基本方針を規定する国家安全保障戦略は 2013 年に策定し、今回が初めての改定になる。この戦略を踏まえた防衛力の水準を示

す防衛大綱をつくり、5年間の防衛費総額や主要装備の数量を中期防に定める。各年度の予算は3文書に基づいて具体的な経費を計上する。

今回は相手のミサイル発射拠点などをたたき「反撃能力」の保有が改定の議題になる。従来はなかった経済安全保障の取り組みなども新たに記す。防衛大綱は同盟国の米国と同じ「国家防衛戦略」に衣替えする。米国は同盟国などと協力を深める「統合抑止」を掲げており、日米で整合的な戦略づくりをめざす。

議題2:「今後の陸上自衛隊再編計画について(特に第9師団の再編等について)」

防衛省 傍系計画課 業務計画第一班 河島 慎吾 防衛部員

第9師団の再編等について

現在の約5370名から約5220名とする

偵察戦闘大隊、約290名を岩手に配置する。

戦車大隊(岩手)、約220名を廃止する。

偵察隊(弘前)、約160名を廃止する。

後方支援連隊(八戸)約760名を約720名とする。

上記の説明をうける。第 9 師団の再編等については、弘前市に直接関わりのある大事な問題であり、情報収集をし弘前市議会議員としても弘前市議会有志による防衛議員連盟のメンバーとしても防衛省に対し要望・陳情をすることが必要と考える。また、地元弘前市に弘前駐屯地があることの大事さを改めて確認した。

防衛大臣政務官



衆議院議員
木村次郎



陸上幕僚長

陸将 吉田圭秀



〒一六二一八八〇二
東京都新宿区市谷本村町五番一號
電話 (〇三) 三二六八一三一 一

防衛省
木村防衛大臣政務官室

小池 菜月



〒一六二一八八〇一 東京都新宿区市谷本村町五一
TEL: 〇三(三二六八) 三一一 内線 二〇〇二三
FAX: 〇三(五二六九) 三二四一
E-mail: [Redacted]

防衛省
木村防衛大臣政務官 副官

三等陸佐 兼子航



〒一六二一八八〇一 東京都新宿区市谷本村町五一
TEL: 〇三(三二六八) 三一一 内線 二〇〇二三
FAX: 〇三(五二六九) 三二四一
E-mail: [Redacted]

防衛省
木村防衛大臣政務官 秘書官

磯間 遼太



〒一六二一八八〇一 東京都新宿区市谷本村町五一
TEL: 〇三(三二六八) 三一一 内線 二〇〇二三
FAX: 〇三(五二六九) 三二四一
E-mail: [Redacted]

防衛省防衛政策局防衛政策課

総括班長

鈴木 健太郎

〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5-1
電話 〇三三三六八一三一 内線二〇三六一
FAX 〇三三五二九一二三五
メール



防衛省 整備計画局
防衛計画課 業務計画第1班

防衛部員 河島 慎吾
Kawashima Shingo

〒162-8801
東京都新宿区市谷本村町5-1
TEL: 03-3268-3111 (内線20495)
E-mail: [REDACTED]



防衛大臣政務官
木村 次郎 様

要 望 書

令和4年12月14日

弘前市議会議員有志による防衛議員連盟

陸上自衛隊 弘前駐屯地の体制維持・強化に関する 要望

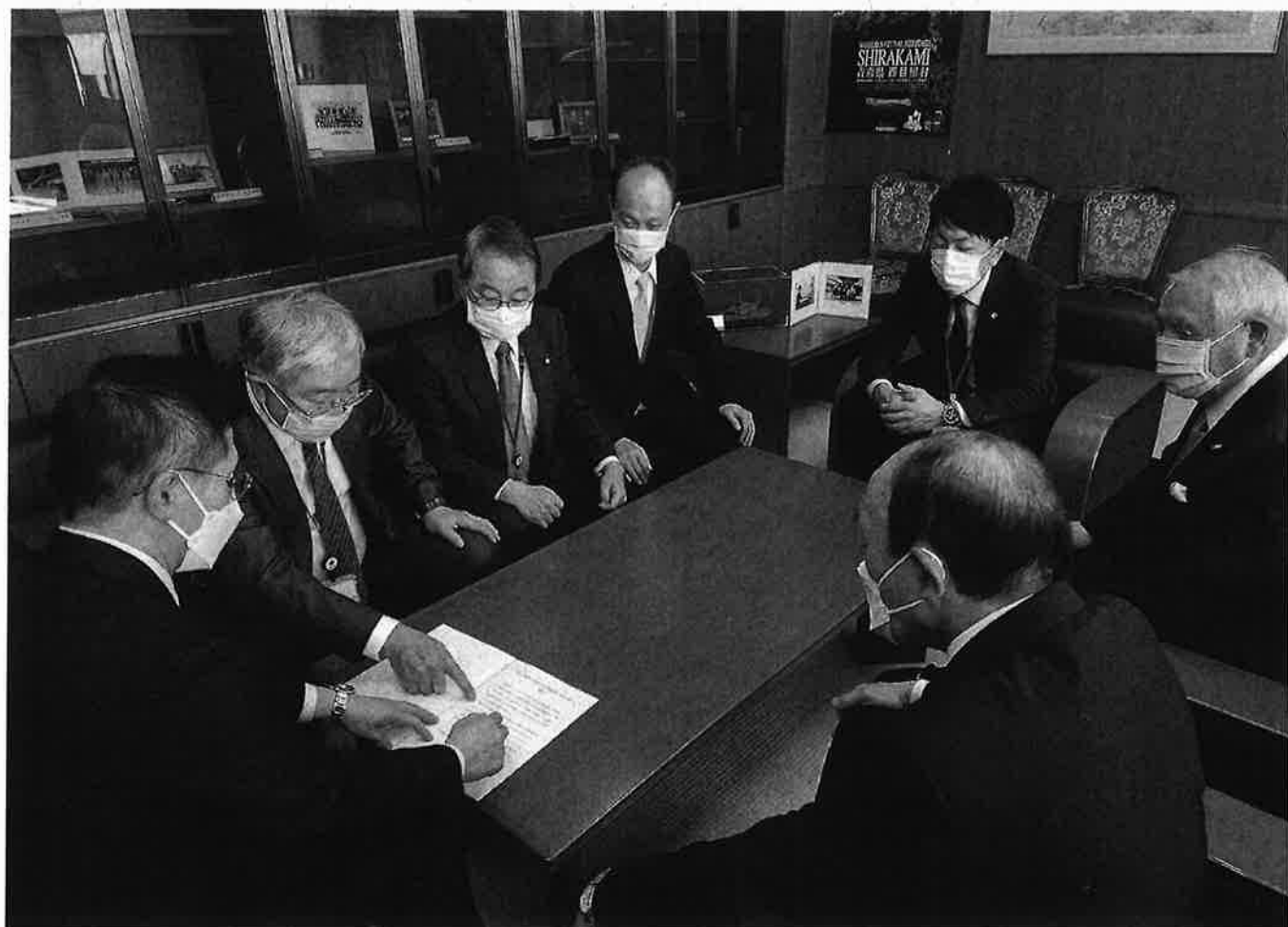
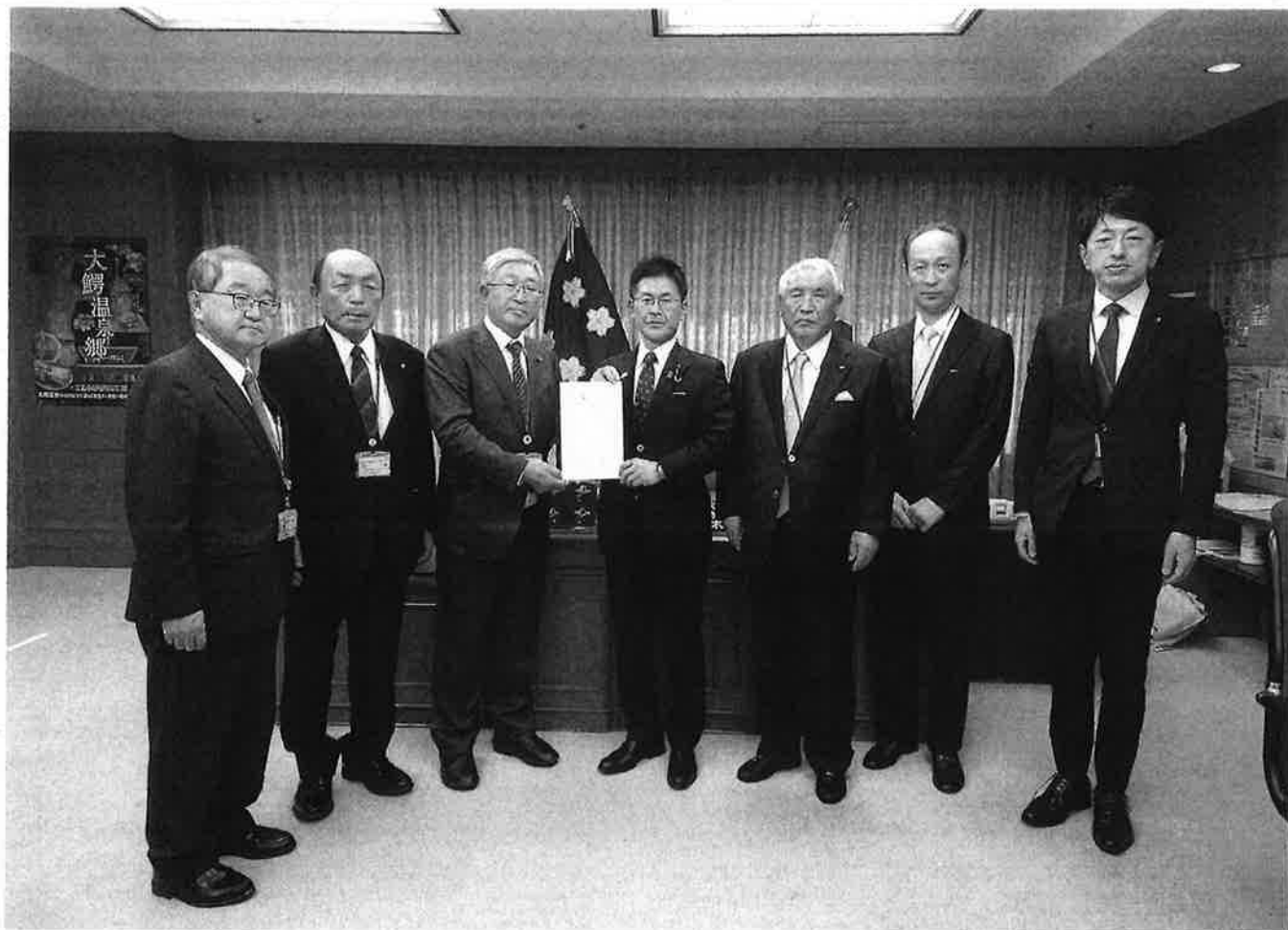
武力によるロシアのウクライナ侵略、中国による尖閣諸島周辺への領海進入、北朝鮮による弾道ミサイル発射等、我が国を取り巻く安全保障環境はより一層厳しさを増しております。特に10月4日の北朝鮮による弾道ミサイル発射は、青森県上空を通過し、4000キロ飛行し太平洋上に落下しましたが、当市を始めとする青森県民に恐怖を与えました。

当市には商工会議所を中心とした市民活動によって誘致した弘前駐屯地が設立されて54年が経ちますが、地域と共に歩んできた弘前駐屯地は防衛だけではなく、災害時の支援、地域経済の観点からも地元にとってはなくてはならない存在であります。本年末には防衛計画の大綱の見直しも予定されており、陸上自衛隊においても、今後の配備について再編計画が行われる可能性があるとの認識致しております。これまで地域と共に、地元市民と共に歩んできた弘前駐屯地について、再編することなく、これまでの体制を維持し、更なる強化をして頂くことを要望いたします。

令和4年12月14日

弘前市議会議員有志による防衛議員連盟 会長

尾崎 寿一





政務活動報告書

会 派 名 櫻 鳴 会

年 月 日	令和 5 年 1 月 12 日 ~ 5 年 1 月 13 日		
場 所 (市外の場合は 行程を記入)	1月12日(木) 午後2時.....秋田県仙北市 1月13日(金) 午前9時30分...秋田県秋田市		
	1月12日(木) 弘前 - 鷹巣駅 - 角館駅 - 角館樺細工伝承館 - 秋田市内 1月13日(金) 秋田駅 - 弘前		
相手方 (会議名等)	1月12日(木) 秋田県仙北市視察 (角館地区の観光施策について、秋田内陸縦貫鉄道を活用した観光戦略について) 1月13日(金) 秋田県秋田市視察 (エイジフレンドリーシティの取組について)		
参加議員名	三上 秋雄、宮本 隆志、田中 元、齋藤 豪、坂本 崇		
活動の概要	別紙のとおり		
	<p style="text-align: center;">※会議・研修資料等があれば、添付してください。</p>		
活動に要した経費	主な品目	政務活動費相当額	領収書番号
	旅費(交通費及び宿泊費)	94,700 円	5
	鉄道賃 (鷹巣駅→角館駅)	8,500 円	6
	タクシー代 (角館駅→角館樺細工伝承館)	1,820 円	7
	タクシー代 (角館樺細工伝承館→角館駅)	1,620 円	8
		円	
		円	
合計額	106,640 円		
備 考	(写真貼付等) 別紙のとおり		

令和4年度
政務調査活動（行政視察）

報 告 書

視察日 令和5年1月12日～13日

視察先 1月12日 秋田県仙北市

1月13日 秋田県秋田市

弘前市議会 会派 櫻鳴会

三上 秋雄 宮本 隆志 田中 元

齋藤 豪 坂本 崇

秋田県仙北市視察報告書

1. 視察日時 令和5年1月12日(木) 14:00~15:30
2. 視察先 秋田県仙北市 角館樺細工伝承館
3. 調査事項 角館地区の観光施策及び秋田内陸縦貫鉄道を活用した観光戦略について
4. 調査内容

(1) 角館地区の観光施策について

仙北市には田沢湖駅、角館駅の2つの新幹線駅がある。アウトドアや温泉、自然景観等を求める客層の多い田沢湖エリアと、桜、歴史文化等を求める客層の多い角館エリアと大きく2つのエリアに分けられる。他に農村文化や、秋田内陸縦貫鉄道等を求める客層の多い西木エリアがある。

① 観光客入込客数

仙北市全体の宿泊者、日帰り客の過去5年の実績は、コロナ前までは宿泊50万人、入込500万人を目安としていたが、コロナ以降、宿泊35万人、入込220万人程度となっている。

角館エリアに来る多くの観光客を、田沢湖をはじめとする宿泊地につなげられず、長い間通過型観光になっているのが課題。

コロナの影響で桜まつりを実施しなかった令和2年、まつりを縮小した令和3年は、角館の日帰り客が、アウトドアブームによりキャンプ、アクティビティが増加した田沢湖に逆転された。角館の観光客誘客は「桜」への依存度が高い。良くも悪くも課題と言える。

「みちのく三大桜名所」の仲間である弘前市からは桜の管理技術を以前から学んでいる。

② 武家屋敷、角館祭りの「やま行事」等の観光資源を生かした施策について

- ・ 武家屋敷通りは弘前の仲町と同様に重要伝統的建造物群保存地区となっており、武家屋敷は6棟が保存されている。桜まつり期間、紅葉期間、冬期間は武家屋敷でライトアップを実施し、夜間の誘客を図っている。
- ・ 角館は南北に長い町割りとなっており、中央にかつて火除けと呼

ばれる防火広場があった。この広場をはさんで、北が武家町の内町、南が町人、商人町である外町に分かれている。令和3年に火除け地にあった旧角館庁舎が解体され、令和4年から火除け地の復元及び活用について検討が始まった。過去2回の検討会では「土塁などは案内板を設置して後世へ伝える資料として残し、若い世代のために憩いの広場的整備を」という意見や、「角館を訪れる観光客は本物を求めており、武家屋敷と町人町の境に土塁があるというのは全国的にも珍しいので、角館の大きな魅力になる」等の意見が出されている。

- ・角館祭りの「やま行事」は角館総鎮守神明社と成就院薬師堂の祭りで毎年9月7日から9日まで行われている。平成3年に国指定重要無形民俗文化財、平成29年にユネスコ無形文化遺産「山・鉾屋台行事」に指定されている。

コロナ禍により令和2年は曳山展示なし、令和3年は曳山展示のみとし、実質的には中止。令和4年は参加者の管理や3密対策をとりながら曳山曳きまわしを行うなど、若干規模を縮小して実施。

③ インバウンド対策・PRについて

仙北市は、台湾、タイ、香港からの観光客が多い。角館エリアは仙北市内の中でもパンフレットや看板などの多言語化、電子決済の導入が一早く進んだ。

仙北市では地方創生交付金を活用し、台湾とタイからの誘客促進を図る目的として、現地に拠点がある日本の事業者にて現地事務所機能を含む業務委託を行い、仙北市に特化した誘客促進につながる情報を収集するとともに傾向を分析、さらにセールス及びプロモーション活動を実施している。また、英語が堪能な地域おこし協力隊2名と台湾人の国際交流員を配置、旅行業資格を取った地域の方が参加する一般社団法人格を持った協議会を立ち上げ、外国人にも武家屋敷の魅力がしっかりと伝わるような体制づくり、旅行手配までのサポートを行っている。

④ 二次交通対策

令和4年5月から、JR東日本秋田支社と仙北市との共同事業によるオンデマンド交通を開始。1人1回300円で角館駅を中心としたフリー乗降エリア＋7カ所の乗降場所で乗れる。スマホアプリか電話で予約できる。

(2) 秋田内陸縦貫鉄道を活用した観光戦略について

秋田内陸線沿線は古くからグリーンツーリズムが盛んな地域。秋田県初の農家民宿「泰山堂」など7軒の農家民宿がある。羽後太田駅では「田んぼアート」、西明寺駅には3セク運営の温泉「クリオン」、八津駅には日本最大級のカタクリ自生地である西明寺栗園等の観光施設・名所があり、田沢湖に最も近い駅・松葉駅周辺では「松葉相内の裸参り」、羽後中里駅周辺では奇祭「カンデッコあげ」、上桧木内駅周辺では「紙風船上げ」等の行事が行われている。

① 内陸線の魅力発信事業

- ・ 秋田県、弘前市、大館市、北秋田市、仙北市の5団体の負担金で運営している秋田内陸線・奥羽北線沿線連絡協議会（事務局：北秋田市）で発行しているパンフレット「内陸線の旅」を発行。関連してスタンプラリーやインフルエンサー招聘等を実施。
- ・ 秋田県、北秋田市、仙北市、秋田内陸縦貫鉄道、バスタクシー事業者、東北運輸局秋田支局、沿線各団体等で構成する秋田内陸地域公共交通連携協議会（事務局北秋田市）が各種施策を実施している。仙北市では公共交通の関係から総務部企画政策が担当。事業の一つ「田んぼアート」は沿線5カ所中、2カ所が仙北市で。デザイン案の募集を行ったところ、300件を超える応募があった。

② 観光列車

角館駅～阿仁合駅に設定されている定期列車に増結される観光列車「ごっつお玉手箱列車」を実施。途中駅から地元の農家の父さん母さんが料理を列車に積み込み、列車に揺られながら徐々にごちそうが完成する「玉手箱」のようなコース料理を配膳する仙北市自慢のグルメ系の観光列車で、増便、キャンセル待ちが発生するなど人気を誇っている。

③ 課題・その他

- ・ 沿線には多くの観光施設、名所があるが、近年は乗用車利用が多く、コロナ過もあって観光客の内陸線利用者は少ない。サイクルトレインや駅での無料レンタサイクルの取組があるものの認知が追い付いていない状況。
- ・ コロナ前までは、台湾、タイからのバスツアーが内陸線乗車体験

(角館駅～松葉駅) を組み入れ人気を博していたことから、アフターコロナのインバウンド需要回復に期待を寄せている。

- 仙北市では 2010 年に、秋田県、北秋田市、秋田内陸縦貫鉄道と交わした 2 社合意に基づき、毎年約 6 千万円の運営費を補助している。更に令和 4 年度は同鉄道連絡協議会へ負担金、駅前維持費、踏切改修費、観光列車改装費等 3 千 2 4 0 万円を支援。
- 令和 4 年 11 月に市民の内陸線利用実態を調査したところ、最近一年の乗車頻度は、「乗車しない」9 割という実態がわかった。仙北市は令和 4 年 12 月に市議会全員協議会で調査結果を報告。今後、観光面での効果を含めて内陸線の存続について協議して行く方針を示した。





仙北市

議会事務局

〒914

2293

秋田県仙北市田沢湖生保内字宮ノ後30

TEL (0187) 4310334

FAX (0187) 4311665

武藤義彦

仙北市議会議員
産業建設常任委員長



秋田県仙北市 議会事務局

事務局長

朝水勝巳

Asamizu

Katsumi

〒014-1298

秋田県仙北市田沢湖生保内字宮ノ後30

TEL 0187-43-0334 / FAX 0187-43-1665

E-mail: [Redacted]



秋田県仙北市 観光文化スポーツ部

部長 草 薊 郁太郎

秋田県仙北市
-SDGs 未来都市-

〒014-0392 秋田県仙北市角館町中菅沢81番地8 Tel:0187-43-3352 Fax:0187-54-4102

E-mail: [Redacted]



秋田県 仙北市 観光文化スポーツ部

次長 佐藤嘉繁

Sato Yoshishige

〒014-0392 秋田県仙北市角館町中菅沢81番地8

TEL 0187-43-3352 FAX 0187-54-4102

e-mail: [Redacted]



仙北市
SEMBOKU CITY

秋田県仙北市
観光文化スポーツ部観光課

SDGs未来都市

課長

泉谷 衆
TAMI IZUMITANI

〒014-0392 秋田県仙北市角館町中菅沢81-8

TEL 0187-43-3352 FAX 0187-54-4102

E-mail: [Redacted]

高 質 な 画 質
AKITAVISION

秋田県秋田市視察報告書

1. 活動日時 令和5年1月13日（金） 9：30～11：00
2. 視察場所 秋田県秋田市山王1-1-1 秋田市役所
3. 調査項目 エイジフレンドリーシティの取組について

4. 調査内容

(1) エイジフレンドリーシティとは

エイジフレンドリーシティとは、「高齢者にやさしい都市」という意味で、エイジフレンドリーシティは世界的な高齢化・都市化・都市の高齢化に対応するために、2007年、WHO（世界保健機関）のプロジェクトにおいて提唱された。

WHOでは、世界各国で実施した聞き取り調査結果から、高齢者にやさしい都市かどうか、8つのトピックについての検証が必要であるとし、さらに具体的な検証を行うため、8つのトピックごとに84のチェックリストも発表し、それぞれの都市が自己診断ツールとして活用することを推奨している。

※8つのトピック

1. 屋外スペースと建物
2. 交通機関
3. 住居
4. 社会参加
5. 尊敬と社会的包摂
6. 市民参加と雇用
7. コミュニケーションと情報
8. 地域社会の支援と保健サービス

全人口の65歳以上の高齢化率は、増加の一途をたどっており、2010（平成22）年の24.1%から30年後の2040（平成52）年には、42.3%と大幅な増加が見込まれていることから、秋田市では、平成28年3月に秋田市人口ビジョンと秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、2040（平成52）年に約23万5千人とされている推計を2万4千人余り上回る26万人を目指すべき将来人口と定め、その実現に向けて着実に取り組んでおり、超高齢社会の課題解決先進地として、高齢者の持つニーズや多様性をより深く理解し、活かすことで、地域社会や経済が将来に向けて発展する「秋田市モデル」の構築を目指している。

(2) 主な取組み

① 高齢者コインバス事業

高齢者の外出促進と社会参加、生きがいづくりを支援することを目的とした事業で、65歳以上の高齢者が、証明書を見せて1回100円で路線バスに乗車できる制度を平成23年10月から実施。資格証明書交付率は64.49%（令和4年3月末現在）で、地域連携ICカード導入に伴い、令和5年3月末までにICカードシニア版（シニアアキカ）に完全移行を予定している。

② エイジフレンドリーパートナーづくり推進事業

民間から高齢者にやさしい地域社会づくりを促進するとともに、生涯現役社会の推進や超高齢社会をチャンスと捉えた新たなビジネス創出を目指す事業。

登録企業数は105事業者（令和元年10月24日現在）で、事業者が高齢者や障がい者にやさしい取組を3年計画で3つ以上設定し継続して実施。主な取組事例として、認知症サポーター養成講座の受講、ユニバーサルデザイン店舗づくり、健康教室や終活セミナー等の開催、高齢者の積極的雇用、近隣住民も使用できるAEDの設置、牛乳配達時の見守りサービス等。

③ 高齢者生活支援情報提供

公的サービス以外の民間事業者等から提供される生活支援情報を集約・発信する事業で、令和3年度は、生活支援サービス、各種宅配、訪問理美容、空き家管理、生前整理・遺品整理等、幅広い分野の情報を掲載した冊子を2万部作成。

④ エイジフレンドリーシティ普及啓発事業

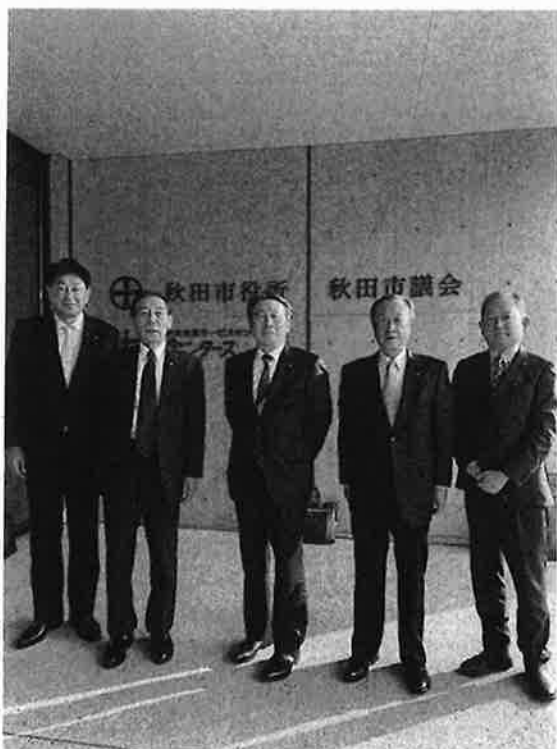
市民の意識啓発、市民活動の促進を図ることを目的にエイジフレンドリーシティカレッジリレーセミナーの開催、「秋田市エイジフレンドリーシティ通信」の発行、シニア映画祭の開催、Facebook、Twitterの開設等を実施。

⑤ 高齢者コミュニティ活動創出・支援事業

市民主体の地域づくり促進を目的に、ボランティア、世代間交流、生きがい就労など、地域における高齢者の様々なコミュニティ活動を創出、支援し、それらの活動によって地域課題の解決が図られる

仕組みづくりと体制構築を図っている。平成30年度から令和3年度まで市内5地区の戦略づくりワークショップを開催。

- ⑥ エイジの日プロモーション事業（令和4年度からの取組）
第3次行動計画の初年度に際し、あらゆる年代を対象としたさらなるエイジフレンドリーシティの認知向上と周知啓発、高齢者のいきがづくりを促進することを目的に、講演会や映画祭（「瀬戸内寂聴99年生きて思うこと」ほか）コンサート、スタンプラリー等、啓発事業を実施。





秋田市議会事務局
議事課



課長

鎌田 善仁

Kamada Yoshihito

〒010-8560 秋田市山王一丁目1-1
TEL018-888-5784 FAX018-888-5783
e-mail: [REDACTED]

秋田市福祉保健部 長寿福祉課
エイジフレンドリーシティ推進担当



エイジフレンドリーシティあきた

参事 西村 美樹子

〒010-8560 秋田市山王一丁目 1-1

tel(018)888-5666 fax(018)888-5667

e-mail [REDACTED]

ともに考え、ともにつくる 高齢者にやさしい都市
～誰もが心豊かにいきいきと暮らせる社会をめざして～

8月24日はエイジフレンドリーシティの日

秋田市福祉保健部 長寿福祉課
エイジフレンドリーシティ推進担当



エイジフレンドリーシティあきた

主任 富野 将治

〒010-8560 秋田市山王一丁目 1-1

tel (018)888-5666 fax (018)888-5667

e-mail [REDACTED]

ともに考え、ともにつくる 高齢者にやさしい都市
～誰もが心豊かにいきいきと暮らせる社会をめざして～

秋田市は、エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）を目指しています

所 感

三上 秋雄

1. 角館地区の観光施策及び秋田内陸縦貫鉄道を活用した観光戦略について

仙北市の角館地区は、弘前公園、岩手県北上市の展勝地と並んで「みちのく三大桜名所」と称されており、当市とも関係の深い場所である。また、鉄道ファンに人気の秋田内陸縦貫鉄道の発着駅でもある。環境面で弘南鉄道を有する当市との類似点、共通点があることから、ローカル線を活用した誘客等も含め、角館エリアの観光施策について調査を行った。

武家屋敷の町並みは道路巾も広く直線で、交差点はマス型になっている。また 武家屋敷の黒塗りの板塀も統一され風格があり、江戸時代の武家 社会の歴史と伝統が感じられた。当市の伝統建造物群保存地区の整備面においてこの統一された雰囲気づくりは参考になるものであった。

2. エイジフレンドリーシティの取組について

当市の高齢化率は団塊の世代が後期高齢者を迎える令和7年には34%に達する見込みとされており、高齢者を取り巻く社会状況の変化や超高齢社会における問題・課題に対応する取組が重要であると考え

る。秋田市では平成21年度から、世界的な高齢化に対応するため、高齢者にやさしい都市「エイジフレンドリーシティ」の実現に向けた取組を開始し、各種事業を行っており、今後の当市の高齢化対策に資するためにその先駆的な取組について視察を行った。

高齢者対策は本市においても力を入れていくべきことである。秋田市の先進的な取組は、市長の公約でもあり、特に力を入れている印象を受けた。

所 感

宮本 隆志

1. 角館地区の観光施策及び秋田内陸縦貫鉄道を活用した観光戦略について

角館地区の武家屋敷が連なった町並みは当時のまま保存されていることは全国的にも貴重であり素晴らしい。

秋田県屈指の観光名所であるが、長い間通過型観光になっているのが課題で、特に桜の季節に集中しているという。近年は、アウトドアブームもあってか、日帰り客数はお隣の田沢湖が上回って逆転現象が起きているとのことであった。

仙北市では地方創生交付金を活用し、台湾とタイの誘客促進を現地に拠点がある日本の事業者により現地事務所機能を含む業務委託を行っており、仙北市に特化した誘客促進につながる情報を収集するとともに傾向を分析、さらにセールス及びプロモーション活動を実施している。視察当日も、アジア系の外国人観光客の姿が散見され、コロナ終息後のインバウンドに期待しているようであった。

2. エイジフレンドリーシティの取組について

高齢者が長く楽しく暮らしていくための、様々な取組に対する支援、住み慣れた地域でいきいきと活躍するための様々な仕組みづくりはたいへん参考になった。

高齢者の健康と福祉の増進は本市でも取り組んでいるが、秋田市は官民をあげて体系的に進めていると感じた。また、役所の各部署がそれぞれの専門分野において、エイジフレンドリーシティを意識し横断的に取組むことで市内の一体感を生み出していた。こういった一体感の醸成は当市が掲げる「健康都市ひろさき」においても参考になるものと思われる。

所 感

田中 元

1. 角館地区の観光施策及び秋田内陸縦貫鉄道を活用した観光戦略について

藩政時代の面影を残す角館は東北の小京都と呼ぶのにふさわしい風情のある観光地である。各武家屋敷には歴史を感じさせる古木があり、手の行き届いた管理が行われている印象を持った。武士の威厳を保った屋敷のメンテナンスは大変なことであろう。

当市にも武家屋敷がある伝建地区があるが、角館ほどではなくとももう少し威厳や風格を出す工夫があってもいい。

2. エイジフレンドリーシティの取組について

秋田市では、平成21年度から世界的に進行する高齢化に対応するためのプロジェクトで平成19年にWHOが提唱する「エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）」の実現に取り組んでいる。その基本理念は、「心豊かで活力ある健康長寿社会」つまり高齢者が豊かな経験や知識を生かして活躍できる社会である。

一人でも多くの方が人生100年時代を自分らしく、楽しく、生きがいや希望をもって暮らせるよう平成25年度に第1次、平成28年度に第2次「秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画」を策定し、行政、市民、民間の協働による新しい社会づくりを目指しており、本市のこれからの高齢福祉施策の参考に資するため視察を行った。

視察を通じて感じたことは、多くの事業を行っているが、市の担当職員は数名しかおらず、市民の協力を集めながら全庁をあげて各分野で多くの関連事業を行っていることであった。これは行政と地域の協働の好事例である。

所 感

齋藤 豪

1. 角館地区の観光施策及び秋田内陸縦貫鉄道を活用した観光戦略について

今回の視察では、隣県で様々な共通点や類似した特色ある観光施策を展開している角館地区の観光施策に着目して視察してきました。

城下町のたたずまいを今でも残し、現存する武家屋敷や商家などの古い建造物が秋田藩（佐竹藩主）の時代から大きく変わっていない街並みを私自身初めて訪れて目の当たりにして、改めて古き良き時代の遺産について痛感させられました。更にそれぞれの建造物の敷地内に植えられた桜の古木にあっても、弘前市の公園緑地課の（桜もり）の方々との交流も今回の視察で知ることとなりました。城下町・桜・角館祭りが観光の柱として位置づけられており、当市と極めて類似しているといった印象を受けました。藩政時代の街並みを当時のまま保存整備し、観光につなげる仙北市角館地区の取り組みには、観光を主眼にした街づくりの取り組みに弘前市の街づくりの形を今一度検証してみることも必要ではないかと感じました。

今回はもう一点、当市においても課題となっている、地域住民や学生・勤労者の交通手段として財政支援を行っている弘南鉄道と類似点の多い秋田内陸縦貫鉄道を活用した観光施策についても視察、調査を行いました。インバウンド観光の需要では一定数程度の観光客の乗降は見込めたものの、やはり車社会の波には勝てず鉄道乗降客の伸び悩みから内陸縦貫鉄道への財政支援支出のあり方はもとより、鉄道そのものの存続が議論するまでになっているとのことでした。弘南鉄道と同様、地域住民の利用実態からの判断か、観光目的のツールに着目するかが、今後の市の財政が逼迫する中での苦渋の選択を迫られているようでありました。

弘前市の今後にも是々非々で考える時期に来ているように感じました。

2. エイジフレンドリーシティの取組について

隣県でありながら、中々足を運ぶことが少ない秋田市において、2007年（平成19年）から、世界保健機関（WHO）の認証取得を目指して展開しているエイジフレンドリーシップの取組みについて、視察、調査させていただきました。

当初の計画において、世界水準の認証取得という高いハードルを掲げた取組みには、非常に興味深く関心を寄せての調査となりました。少子高齢化は弘前市においても避けることのできない喫緊の課題であるかな？と現実逃避するかの如く捉えていました。しかしながら、私自身60歳になり、両親も80代となり、一方で保育園・小学校などの将来を支える子供の数は減少の一途をたどっております。

エイジフレンドリーシップ構想の推進に、いち早く着手した秋田市の取組みは官民挙げての施策として市民の中にも浸透してきているとのことでした。短命県返上、人生100年時代、耳ざわりの良い言葉を現代社会にいかにか落とし込むことができるのか、高齢者だけではなくすべての世代にとって、暮らしやすい町のあり方や実現に向けて大きな目標としても素晴らしい取組みであると思えました。

百聞は一見に如かず、灯台下暗しとでも言いますか、隣県の素晴らしい取組みは大いに参考になりました。

1. 角館地区の観光施策及び秋田内陸縦貫鉄道を活用した観光戦略について

秋田県の中でも人気の高い観光地である角館市は、現在も藩政時代の地割が踏襲され、武家屋敷等の建造物が数多く残されていることから、歴史的景観を好む層から人気が高く、ジャパニテイストを求める海外からの観光客にも好まれる要素を持っている。視察時も東南アジア系の観光客の姿が見られた。こういった層は、つくりものではない「本物」を求めてくるので、歴史的建造物や街並みの保存の徹底ぶりは、同じく歴史的建造物の多い本市も見習うべき点が多い。

秋田内陸縦貫鉄道の観光列車の手法は、グリーンツーリズムとからめる企画や、またインバウンドの部分的な乗車体験等を行っており参考になった。弘南鉄道も始発から終点までの乗車も企画によっては有効だが、自然景観の良い区間、例えばたわわに実ったりんごを見れる区間だけ乗車体験させるという組み方も海外からの団体ツアー等には有効であると感じた。

2. エイジフレンドリーシティの取組について

秋田市は、平成 23 年 12 月に、WHO が進めている「エイジフレンドリーシティグローバルネットワーク」に日本の自治体第 1 号として参加、平成 31 年 3 月には先進的な取組を行う 11 都市・地域のうちの 1 都市として WHO により選出されている（※令和 5 年 1 月現在で、世界で 1,445 都市・地域が参加し、日本国内では 24 の自治体が登録）。その取組は遡ること 14 年前の平成 21 年度に構想着手に始まり、今では国内のトップランナーとして各地から注目されている。今後世界的に高齢化が顕著になることが予想される中でその先見性、事業推進力は大変参考になった。

事業実施にあたっては、プロジェクトの推進窓口である秋田市長寿福祉課の担当 4 名で行っているとのことであったが、他担当部署が横断的に事業に関わり、全庁を挙げて実施されているとのこと

あった。また、行政のみならず、市民、民間事業者、団体が協働し、市民全員が主体的に関わるよう地域社会全体の意識の醸成を行うことに力を入れている。その手法は、当市が標榜する「健康都市ひろさき」づくりにおいても親和性が高く、多くの刺激を頂いた。今視察で得たことを当市の今後の市政に反映させて行きたい。